

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3671200263
法人名	医療法人 青鳳会
事業所名	グループホーム みま石井
所在地	徳島県名西郡石井町浦庄字上浦524の9 (電話) 088-674-0234

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 19日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 14人,非常勤 0人,常勤換算 1階 7人, 2階 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,100円,その他実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	10 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・美摩病院 ・井上歯科 ・さとう歯科
---------	--------------------

徳島県 グループホームみま石井 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみま石井は国道沿いに位置しているが、一歩ホームの中に入ると外の騒音がうそのように静かで明るく生活感の漂う家庭的なホームである。利用者の状況把握についてもいたる所に配慮がみられ、例えばトイレには壁にチェックシートが他の利用者から見えないように貼られ、用便の状況がすぐ記録できるように細やかな配慮がされていた。利用者の立場にたった支援を心がけ、利用者職員との笑顔が印象的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善された内容①パンフレットに理念の明記②ケア会議の定期的な開催③緊急時の訓練、研修④研修計画作成⑤危険物の保管・管理⑥ヒヤリハット等の記録・確認⑦苦情・相談受付の記載⑧ホーム便りの発行⑨市町村、近隣、地域資源の発掘等積極的な関わり
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回での課題についての改善計画と行動指針を立ち上げ、その取り組みを踏まえて、今回の自己評価は全職員で行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、法人職員、事業所職員によって構成されている。内容は、取り組み状況の説明や評価結果等が報告されている。開所以来、年1回の開催である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便りや家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、気軽に毎日面会に訪れる方もおり、意見や要望が言いやすい馴染みの関係が築かれている。共用トイレを男女別にするなど、本人や家族から出された要望等には直ぐに対応し、積極的に運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民生委員連絡会に出席したり、社会福祉協議会に依頼して地域のボランティアを紹介してもらったり、積極的に地域と交流できるよう努めている。

社会福祉法人 社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のなかでその人らしく暮らせることを支えるケアについての意義を理解し、地域密着型サービスとしての理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を共有し、利用者への言葉かけや接する態度など日々のサービスの実践場面に反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員連絡会に出席したり、社会福祉協議会に依頼して朗読ボランティアを紹介してもらう等、積極的に地域と交流できるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での課題についての改善計画と行動指針を立ち上げ、改善シートを作って全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、法人職員、事業所職員によって構成されている。内容は、取り組み状況の説明や評価結果等が報告されている。開催は、開所以来年1回であり、また、会議内容が全職員に周知されたことが分かる記録がない。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されたい。会議録は、職員へ回覧し、サインや押印する等のシステムを確立し、情報の共有が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の勉強会や書類の手続きの際に交流を図り、情報収集や意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、金銭管理の記録は一人ひとり詳しく報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市町村主催の勉強会や書類の手続きの際に交流を図り、情報収集や意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット相互の職員が行き来し、利用者や職員の馴染みの関係を築いており、離職時にはお互いをサポートし、利用者へのダメージを軽減できるよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画に基づいて実施されている。内容は記録として残され、回覧印もあり、全職員に共有されたことが分かる仕組みがつけられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や職員相互の交流を図り、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者の生活歴や習慣などの情報を家族から聞き、これまでの生活が継続されるよう支援するなど、自然にホームに慣れてもらえるような配慮や工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの習慣や遊び、漬物の作り方を教えてもらう等、利用者の力が発揮できる場面をつくり、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話や行動、表情等から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で把握した意向や、面会時等に聞いた家族の意見等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間に応じた見直しと、利用者からの要望や状態変化等があった場合には家族等と相談し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、重度化した場合や急変時等は職員が病院に付き添うなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。また、歯科、眼科、皮膚科については往診が受けられるようサポートしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針が文書化されており、家族や医療機関との連携が図られるよう連絡体制が整えられている。方針は入居時に説明し、関係者間でもミーティング等で共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いについては全職員が共通の認識を持っており、利用者に対する言葉かけの場面においてもプライバシーを損ねないよう取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に出かける時間帯など一人ひとりのペースを大切に、希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、利用者の嗜好にそった献立をたてるなど食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により、いつでも入浴できるよう体制を整えている。また、入浴を好まない方には足浴や清拭から入浴につなげる等の工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケやカルタ取り、習字など一人ひとりの楽しみごとが実現でき喜びのある暮らしへの支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内の広い駐車場を利用して日向ぼっこをしたり、裏の畑沿いを散歩するなど、安全面に配慮しつつ戸外へ出かける機会を積極的に作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの横が国道であり、交通量が多いため、日中、玄関を施錠している。	○	安全面を十分考慮し、日中は出入り口を施錠しないケアの実践に取り組まれたたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成され、行動計画のなかでも常に検討されている。また、地域住民や周辺機関に対しても協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体法人の管理栄養士にチェックしてもらっている。体重の変化にも気を付けており、第二・第四土曜日には体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や台所、食堂には観葉植物や季節の花が飾られている。また、共用スペースは整理整頓され掃除も行き届き、居心地よく安全に過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや家族からのプレゼント、ホームでの生活で使い始めたもの等が置かれ、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫されている。		